

伊是名島で古民家再生技術の伝承

特定非営利活動法人 島の風 [沖縄県伊是名村]

テーマ

沖縄古民家再生 職人養成カレッジ(第3回)

設立年月 2005年9月
メンバー数 16人
代表者名 納戸 義彦
連絡先
〒905-0605
沖縄県島尻郡伊是名村字勢理客1542
納戸 義彦
tel 0980-50-7330
fax 0980-50-7330
e-mail info@shimanokaze.jp
URL http://www.shimanokaze.jp

わたしたちについて

「島のこしが島おこし」をミッションに開発に頼らない次世代につなぐ持続可能な島づくりをめざしています。

活動に至った理由や背景

伊是名島は沖縄本島北方約40kmにある周囲約16km、人口約1,600人の小規模離島です。島民のほとんどが何らかの形で零細な農漁業に従事し、自給を中心とした生活スタイルや人を信じ支え合うことで成立するコミュニティの文化が、色濃く残されています。その一方で、現代の社会情勢の変化に伴い、就労の場の喪失や高齢化などにより急速な過疎化が進んでいます。

島内には過疎化により放置された沖縄民家が多数点在し、それらの老朽化、崩壊は伝統的な景観の損失であります。これら放置された古民家を再生し島の景観を守ると共に、それを「島暮らし体験」の1棟貸しの宿泊施設として運用し、住民と共にスモールビジネスを発生させ、就労の場をつくりだす事業「古民家再生プロジェクト」を行っています。その一環として過去2回「沖縄古民家再生職人養成カレッジ」を開催しました。この事業は島内に古民家が放置される要因のひとつに、それらを再生できる人材の不足が挙げられ、再生を望むとなると島外に外注せざるをえず、多大な費用を要します。伝統的な家屋への認識をもち、且つ技能をもった人材の養成は、再生職人としての就労のみならず、再生事業としての起業の可能性も含み、さらには地域の景観の保全にも大きく寄与するものと考え、過去2回の技術者養成カレッジを開催しました。

今回、ハウジングアンドコミュニティ財団の助成を受け、第3回「沖縄古民家再生職人養成カレッジ」を開催させていただきました。

過去開催したカレッジ同様、専門家

の技術指導を仰ぎながら、古民家の修復過程を6講座に分けて、新規受講、再受講を含めさらなる人材の育成を目指しました。また、前回までは島内募集が中心でしたが、若干名ですが島外からも受講希望者を受け入れ、現在、就労に不安を抱く若者にとって「技術をもつ仕事」の魅力に触れる「気づきの場」としての可能性も追求して、今後の活動につなげる事業と位置付けました。

本島からのアクセスも悪く、辺境の地とも呼べるこの島で私たちは「島のこしが島おこし」をミッションに活動を行っています。島に残る優良な自然環境や農漁村の生活景観、伝統的佇まいや伝統文化、それらの基層を流れる風土を「残し、守り、伝える」ことを目的とした運動を住民と共に展開し、さらにはその運動自体を地域資源と捉え、従来の「開発型地域づくり」「消費型観光」から身の丈に合った次世代へつなげる「開発に頼らない持続可能な地域づくり」の実現に向け、取り組みを進めているところです。この「古民家再生プロジェクト」及び「沖縄古民家再生職人養成カレッジ」は、その中心となる重要な事業です。

再生の対象としている古民家は、所有者から自主的に提供を受けたものです。今回のカレッジで対象とした古民家は、既に離島している所有者の方が、私たちの活動に賛同し、放置している古民家を提供したいという申し出をいただいたものです。活用用途及び期間は不問、借料なし、ただし大切に扱ってほしいという条件で覚書を取り交わしました。



活動内容

・7月15日

当法人ホームページ上で参加者募集を開始しました。

・8月15日時点の参加申込者

島外参加者7名(内2名県外、夏休み中のみ参加)、
島内参加者3名

・8月27日、28日 第1回講座

「老朽材の解体と撤去」を開催しました。

台風11号接近のためフェリー運航が変更になり、当初予定していた10名参加の第1講座は5名だけの参加になりましたが、予定通り「老朽材の解体と撤去」作業を行いました。床や天井をはぎ雨漏りやシロアリの被害による腐敗した部材を撤去し、65年ほどの時間で積もった埃やごみを撤去し、きれいな作業空間を確保しました。(参加者:5名)



長年の積もった埃が雨のように降ってきます。

腐った釘を踏みぬかないよう慎重に作業を進めます。慣れない仕事で腰が入っていません。





今回使用した「古民家再生マニュアル」

・9月3日、4日 第2回講座

「躯体工事で補強・防虫処理」を開催しました。

第1回講座で解体した床に新しい部材を入れ、床の躯体工事を行いました。新しい柱や補強金具を設置し、以前よりはるかに強度を増した床の骨組みが出来上がりました。電動丸のこやインパクトドライバーなど、初めて使う受講生は当初恐る恐る戸惑いがありましたが、2日目にはスムーズに使用できるようになり、作業効率も上がりました。最後に島の家屋の天敵であるシロアリの防除剤をしっかりと散布し第2回講座は終了しました。

(参加者8名、見学ボランティア1名)

・9月10日、11日 第3回講座

「天井の梁入れと下張り処理」を開催しました。

前講座で補強した床の梁に仮床板を設置し、天井の梁入れを行いました。続けて軽量天井材を使用予定の天井に下張り処理を施しました。今回はエアコンプレッサーを使用したエア釘打ち機を使用し、ヘルメットやアイマスクなど安全な使用法を指導しながらの講座でした。ほとんどが上を向いての作業ばかりで、日頃、上を向いて作業をすることのない受講生は大変疲れた様子でしたが、仕上がりの様子には満足したようです。

(参加者7名、見学ボランティア2名)

・9月24日、25日 第4回講座

「天井と床の仕上・タイル施工」を開催しました。

当初9月17日、18日開催を予定していましたが第4回講座を台風接近による影響で24日、25日に急ぎよ変更し開催しました。前回講座で下張した天井に軽量の天井材を施工しました。また、今回の対象とした古民家のほかに確保してあるリフォーム工事を実施中の古民家に現場を替え、キッチンのタイル張り、床のPタイル張りを行いました。天井は解体した第1回講座の状態からは全く見えないほどの明るい天井に生まれ変わりました。キッチンの床の施工では、接着剤がほとんど乾いた状態からゴムハンマーでたたきながら行う作業に受講生は当初、貼れるのか疑問に思っていたようですが、施工後、全く動かない状態に貼り付けられたことにびっくりしていました。作業後、流し台も仮設置すると明るいキッチンに様変わりした部屋に受講生も満足でした。

(参加者6名)



腐った躯体を新しい木材に交換します。



沖縄では必須のシロアリ防虫処理。



天井の骨組みはほとんど交換しました。



天井と床の仕上げ作業です。



古い柱の研磨作業です。白い木地が出るまで磨きあげます。



貼り替えた床材、壁材を着色してゆきます。

・10月15日、16日 第5回講座

「塗装処理作業」を開催しました。

10月初旬島内のイベントが重なるため、やや日程がずれてしまいましたが10月15日、16日に第5回講座を開催しました。壁、床をサンドペーパーで研磨した後、オイルステンで着色していきました。長い歳月で汚れた柱を元の木肌が出るまで研磨する作業は大変で又、普通の塗料のように刷毛塗りするのではなく、布でこすり広げていく塗装作業に全員汗びっしょりでした。研磨作業に予定より大幅に時間がかかったため、床の塗装まで行うことができませんでした。次回講座までこちらでつなぎ作業を行うことにしました。又、仕上げの上塗り塗装は、二日目が豪雨になったため、湿度の関係で断念しました。次回講座でその一部を行うこととしました。研磨作業をやってくれた皆さん、鼻の中まで埃だらけになりお疲れさまでした。

(参加者5名、見学ボランティア1名)

・11月12日、13日 第6回講座

「細部の手直しと仕上げ」を開催しました。

1ヶ月ほど日程がずれてしまいましたが、第5回講座でやり残した研磨作業、床の着色を終え、細部の手直しを施し、最終の上塗りを終え、講座最終日を迎えました。最終講座は6名の参加になりましたが、長丁場のカレッジご苦労さまでした。特に今回のカレッジの中心になってくれた島外からの参加者の皆さん、本当に有難うございました。

(参加者6名、見学ボランティア1名)

講座参加者人数

| 日時 | 講座 | 島外参加者 | 島内参加者 | オブザーバー | 合計 |
|---------------|------|-------|-------|--------|-----|
| 8月27日～8月28日 | 第1講座 | 5人 | 0人 | 0人 | 5人 |
| 9月3日～9月4日 | 第2講座 | 6人 | 2人 | 1人 | 9人 |
| 9月10日～9月11日 | 第3講座 | 6人 | 1人 | 2人 | 9人 |
| 9月24日～9月25日 | 第4講座 | 3人 | 3人 | 0人 | 6人 |
| 10月15日～10月16日 | 第5講座 | 3人 | 2人 | 1人 | 6人 |
| 11月12日～11月13日 | 第6講座 | 3人 | 3人 | 1人 | 7人 |
| | | 26人 | 11人 | 5人 | 42人 |

今回は島内参加が少なかった代わりに、島外から若者の参加がありました。

今後の予定

今回、第3回目を開催させていただいた「沖縄古民家再生職人養成カレッジ」は、若干の日程的変更が生じたものの概ね無事完了することができました。今回は前回になかった島外からの参加者を募集する試みを行いました。予想以上に反響があり、アクセスの悪さにもかかわらず多くの若者の参加がありました。その中の2名は夏休み中の限定参加でしたが県外（東京、京都）から参加してくれました。このような体験は初めての人が多く、戸惑いはあったものの、指導者の説明や指示に興味深く関心を示し積極的に参加してくれました。島内からの参加者は少なかったのですが、全員が過去2回のカレッジを受講した経験者で、初めて参加する若者たちのサポート、指導役にまわってくれたことは心強い限りでした。

あらゆるものが準備された社会にあって、自らが汗することによって変化し完成していく仕事、小さい作業の中にも大事な技やルールがあること、仲間と助け合う事でしか進まない仕事など様々な気付きを若者たちに提供できたのではないかと考えております。

毎講座終了後、食事を兼ねたレクチャーの中で、若者たちが離島暮らしを夢見たり、手仕事の世界に興味をもっていることを聞かせていただき、過疎化に悩む私達に新たな方向性を示唆していただいているような気がしています。

しかし、今回経験していただいたのは、全体のほんの一部にしかならず、全体を理解するには程遠い事業ですが、これらをブラッシュアップしながら繰り返すことにより、将来、島暮らしを望む若者たちへのマッチング事業に、成長させることができると考えております。

今回は2泊3日のくり返しという形で実施させて頂きましたが、次回は10日間程度の日程を設定し、若者だけでなく一般の方も参加できるプログラムをと早速、新企画を起案させて頂きました。私どもが冬季に行っている「農的暮らしキャンプ」と「古民家カレッジ」を合体させ、古民家の修復だけでなく農業体験などを合わせ持つ、島暮らしの体験プログラムとしています。夏期と冬季に2回行う延べ20日間の長期のプログラムです。ある程度の資金が必要となり、その手当もできておらず本年度実施できるか解りませんが、今回この「沖縄古民家再生職人養成カレッジ」実施の延長上に生まれた事業案であり、時間がかかっても是非実現したいと考えております。



参考のために、その実施内容などの案を掲載します。

＜実施内容＞

- ・農業体験：農家の方とともに作業をし、農家の1日を体験します。
（協力体制：受け入れ農家4戸程度+JA）
 - ・牧場体験：島内にある牧場で畜産体験します。
 - ・古民家修復体験：当法人修復中の古民家を使用し、再生事業を実際に行います。
 - ・島の資源開発：島の元気研究所開発の島米商品（米粉類）の生産を行います。
 - ・田舎暮らし講話：招聘講師による「田舎暮らし」の座学を開催します。
 - ・期間中、島で行われる行事（祭り等）に参加します。
 - ・地元農家の方との交流会を開催します。
- ※以上のすべての内容を参加者が経験できるようプログラムを組みます。

＜実施期間＞

- ・平成24年9月初旬の10日間（夏Ver.）
- ・平成25年2月中旬の10日間（冬Ver.）

※自然との共生の暮らし（農業）は大きく1年というサイクルで回ります。季節とともに暮らしの内容が変化するように、プログラムも季節を替え実施します。希望者は両期間の参加が可能です。

＜参加対象者＞

- ・若者
自身の未来に不安を抱く若者や新しい生き方を模索している若者
- ・一般
田舎暮らしに興味があり、将来移住等を考えている人たち

仕上がった室内での記念撮影。全員、笑顔で満足げです。